

環境白書の刊行にあたって



富山県は、立山連峰や黒部峡谷などの世界的な山岳景観や蜃気楼がみられる不思議の海富山湾、さらには本州一の植生自然度を誇る森林、名水百選に全国最多の8か所が選定される清らかな水環境など、豊かな水と緑に恵まれています。私たちは、これらの素晴らしい環境を守り育て、県民の大切な財産として、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

現在、地球温暖化をはじめとする地球的規模の問題から、廃棄物や自然の改変、大気・水・土壌の汚染などの身近な問題に至るまで、私たちは様々な環境問題に直面しています。特に、地球温暖化は、人類の生存に関わる深刻な環境問題であり、世界中の人々が協力して取り組まなければならない、待ったなしの課題です。また、地球温暖化や自然破壊などが原因で、過去最速のスピードで生物の絶滅が進んでいるとも言われており、生物多様性の低下も危惧されています。

こうしたなか、富山県では、全国初となる県内全域でのレジ袋の無料配布廃止をはじめ、エコドライブやエコライフの推進、全国トップクラスの包蔵水力を活用した小水力発電の推進や住宅用太陽光発電の導入促進、「水と緑の森づくり税」を活用した里山林の再生、世界自然・野生生物映像祭（JWF）の開催支援など、県民総参加による取り組みを幅広く進めているところです。

これらの取り組みは、本県の恵まれた自然環境や県民の皆様の環境問題に取り組む真摯な姿勢に支えられ、大きな成果を挙げています。例えば、レジ袋の無料配布廃止では、マイバッグ持参率が21年度に94%に達し、22年度上半期においても、引き続き94%と高い水準を維持しており、実施店舗数も当初の約2倍に拡大しています。こうした先進的な取り組みは全国的にも注目され、本県に続き12県で実施されるなど、取り組みの輪が全国に広がっているところです。また、エコドライブの推進では、10万人を超える県民の皆様に「とやまエコドライブ宣言」をしていただいております。さらに、自然環境の保全として、昨年10月に名古屋で開催された「生物多様性条約第10回締結国会議（COP10）」にあわせ、「世界自然・野生生物映像祭 in 名古屋」の開催支援やPRブースの出展を行うとともに、県内においても、UNEP（国連環境計画）と連携した「環日本海生物多様性フォーラム」を開催し、本県の環境対策の取り組みを国内外に発信したところです。

今後とも、県民の皆様と力を合わせて、地球温暖化対策をはじめとする循環型・脱温暖化社会の構築、自然環境・生活環境の保全、水資源の保全と活用などに積極的に取り組み、環日本海地域をリードする「環境先端県」づくりを推進してまいります。

この環境白書は、平成21年度及び22年度における本県の環境の状況を紹介するとともに、環境の保全及び創造に向けた取り組みについて取りまとめたものです。本書を通じて、多くの方々に富山県の環境への理解と関心をさらに高めていただき、環境の保全と創造にご協力を賜りますようお願いいたします。

平成23年3月

富山県知事 石井 隆一